

部局名	健康福祉部	所属名	長寿支援課	所属長名	土井 芳則	電 話	483-1151 内線2220
-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（PLAN）

コード	3133		事務事業名称	在宅福祉サービス事業						短縮コード	経常	3133	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	03	民生費	項	01	社会福祉費	目	03	老人福祉費		
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		八千代市重度心身障害者並びにねたきり老人福祉手当支給条例・八千代市重度痴呆性老人介護手当支給要綱・八千代市ひとり暮らし老人及び重度身体障害者等緊急通報システム設置事業実施要綱・八千代市日常生活用具給付事業実施要綱・八千代市緊急一時保護事業実施要綱他 5 要綱								
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）														
・昭和39年 8 月 1 日老人福祉法施行に伴い開始。65歳以上の高齢者で日常生活に援助を要する者に各種手当及びサービスを提供する。 ・平成17年度末に、在宅福祉事業の対象者について明確化を図った。														
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	6本の柱（章）	01	第 1 章健康福祉都市をめざして							
・平成12年度介護保険の実施により、本事務事業は介護保険を補完する事業と位置づけられた。介護保険法の改正に伴い、施策の見直しが必要になっている。					大項目（節）	02	第 2 節社会福祉							
					中 項 目	04	4. 高齢者福祉							
					小 項 目	01	(1) 高齢者福祉サービス							
					細 項 目	01	①保健福祉サービスの充実							
				実施計画の計画事業										
計画事業の位置付けの有無				☐	計 画 事 業 期 間		～			計 画 事 業 費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（DO）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	65歳以上の在宅高齢者で日常生活に援助を要する者							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成23年度に実際に行ったこと： 申請を受け、各種手当・サービスの提供、ねたきり老人福祉手当支給、重度痴呆性老人介護手当支給、介護用品購入費助成、ひとり暮らし老人緊急通報システム設置、日常生活用具給付、ホームヘルプサービス提供、生きがいデイサービス提供、徘徊高齢者家族支援サービス事業、配食サービス補助事業、成年後見制度利用者支援を実施した。							
	※平成24年度に計画していること： 平成 2 3 年度の事業を継続して行う。							
意図 （何を狙っているのか）	①ひとり暮らし高齢者の安否を確認し、安心した生活を送れるよう援助する。 ②ねたきり及び重度認知症高齢者を支援することで介護者の経済的・精神的負担を軽減する。							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	2 2 年度	2 3 年度		2 4 年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	ひとり暮らし高齢者数	人	2, 131	2, 250	2, 140	2, 250	
	指標 2	在宅でねたきり及び重度の痴呆状態にある高齢者数	人	64	82	73	82	
	指標 3	6 5 歳以上高齢者数	人	38, 669	40, 000	40, 136	42, 328	
活動指標	指標 1	各種手当て・サービス受理件数	件	460	600	457	500	
	指標 2							
	指標 3							
成果指標	指標 1	各サービス利用者数	人	1, 547	1, 600	1, 904	2, 000	
	指標 2							
	指標 3							
上位成果指標	指標 1							
	指標 2							
	指標 3							

コード		3133	事務事業名称	在宅福祉サービス事業			所属名	長寿支援課
			単位	2 2 年度	2 3 年度		2 4 年度	
				実績	計画	実績	計画	
事業費 (A)	財源内訳	国	千円	0	0	0	0	
		県	千円	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	
		一般財源	千円	63,804	69,501	68,566	75,778	
		その他	千円	397	764	333	420	
	主な事業費の内訳			高齢者配食サービス事業21,127千円 緊急通報システム設置事業26,121千円ねたきり老人福祉手当645千円	高齢者配食サービス事業20,520千円 緊急通報システム設置事業28,338千円ねたきり老人福祉手当900千円	高齢者配食サービス事業25,809千円 緊急通報システム設置事業26,590千円ねたきり老人福祉手当670千円	高齢者配食サービス事業28,577千円 緊急通報システム設置事業28,640千円ねたきり老人福祉手当660千円	
	人件費(B)			千円	16,226	15,948.6	13,010.7	
トータルコスト(A)+(B)			千円	80,427	86,213.6	81,909.7	89,208.7	

3. 事務事業の評価（SEE）

評価 類型	評価事項		評価区分	理 由					
目的 妥当性	①事業目的が上位の施策に結びついているか？		☒ 結び付いている	上位施策「高齢者福祉サービス」を推進するために、在宅福祉サービス事業を実施しており、結びついている。					
			☐ 結び付くが見直しの余地がある						
			☐ 結びつきが弱い・ない						
			☐ 評価対象外事項						
	②すでに所期目的を達成しているか？ ※「達成している」を選んだ場合、⑥に進んでください。		☐ 達成している	高齢者で日常生活に援助を必要とする者が増えており、継続していく必要がある。					
			☒ 達成していない						
			☐ 評価対象外事項						
	③民営化で目的を達成できるか？ ※民営化・・・事務事業の全部又は一部の実施主体を全面的に民間事業者等に移行すること。 （民間委託は、権限に属する事務事業等を委託することで、民営化とは異なる。）		☐ 可能性はある	事業は市が主体となり、高齢者が安心して住みなれた生活が送れるように実施しているため、民営化はできない。					
			☒ 可能性はない						
			☐ 評価対象外事項						
	④「対象」・「意図」の設定は現状のままで良いか？		☒ 現状のままでよい	現状の対象と意図により結果に結びつく					
			☐ 見直す必要がある						
☐ 評価対象外事項									
有効性・ 効率性	⑤今後、有効性や効率性を向上させる可能性はあるか？ 可能性がある場合は、⑤－2, 3を記入する。 可能性がない場合は、理由を記入する。		☐ 有効性向上の可能性はある	現段階では技術的な面で向上させる可能性がないが、適宜、安心した生活を送れるよう検討していく。					
			☐ 効率性向上の可能性はある						
			☐ 両方可能性はある						
			☒ 可能性がない						
	⑤－2 有効性や効率性を向上させる手段は何か？ 該当する手段を選択し、具体的な方法と得られる効果を記入する。手段が「類似事業との統合・役割見直し」である場合は、該当する類似事業を記入する。		☐ 民間委託等						
			☐ 再任用職員及び臨時的任用職員等の活用						
			☐ I T化等の業務プロセスの見直し						
			☐ 受益者負担の見直し						
			☐ 類似事業との統合・役割見直し						
			☐ 上記以外の方法	類似 事務 事業 名称	1		実施主体 (所管部署)		
			2			実施主体 (所管部署)			
	⑤－3 推進にあたっての課題はあるか？（一時的な経費増・市民の理解等）		☐ ある						
			☐ ない						

コード	3133	事務事業名称	在宅福祉サービス事業				所属名	長寿支援課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			介護保険サービスの方向性を見ながら, 在宅福祉サービスを現状のまま継続して行っていく。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☒ 現状のまま継続								
⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			高齢者の増加に伴い, ひとり暮らし高齢者に対するサービス等の需要が増加していくと考えられるため, 経費の増が見込まれる。需要増加に応じられるようサービスの内容等を検討する。		
			削 減	不 変	増 加			
	成 果	向 上	☐	☐	☐			
		不 変	☐	☐	☒			
低 下		☐	☐	☐				

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
高齢者からは、身近な場所で交流を望む声が多くよせられている。 事業の継続を望む声も多い。									

所属長コメント	増加する一人暮らしや寝たきり・重度認知症などの要援護者及びその世帯に対する施策として継続していく。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり，現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☐ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☒ 現状のまま継続									